

製品名: アセチルリジンタンパク質ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04163**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル、植物
標識	非共役
修飾	アセチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	20,40,80,175kDa

抗原情報

遺伝子名	
別名	
遺伝子 ID	
SwissProt ID	
免疫原	ヒトのアセチル化 Lys タンパク質から得られた合成アセチルペプチド。

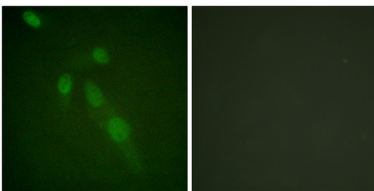
背景

リジンのアセチル化は、セリン、スレオニン、チロシンのリン酸化と同様に、タンパク質の活性を制御する重要な可逆的修飾です。4つのコアヒストン（H2A、H2B、H3、H4）の保存されたアミノ末端ドメインには、ヒストンアセチルトランスフェラーゼ（HAT）に

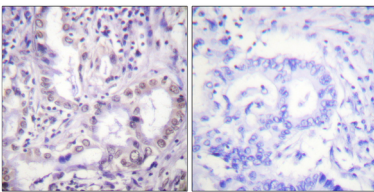
よってアセチル化され、ヒストン脱アセチル化酵素 (HDAC) によって脱アセチル化されるリジンが含まれています。ヒストン、転写因子、その他のタンパク質のアセチル化/脱アセチル化をもたらすシグナル伝達は、クロマチン構造や遺伝子活性、細胞増殖、分化、アポトーシスなど、多様な細胞プロセスに影響を及ぼします。最近のプロテオーム研究では、リジン残基のアセチル化は、細胞周期や代謝、寿命、アクチン重合、核輸送の制御に関する数千ものタンパク質に影響を与える、広く普及している重要な翻訳後タンパク質修飾である可能性が示唆されています。がんやポリグルタミン病ではタンパク質のアセチル化状態の調節が損なわれており、HDAC は現在開発中の抗がん剤の有望なターゲットとなっています。

研究分野

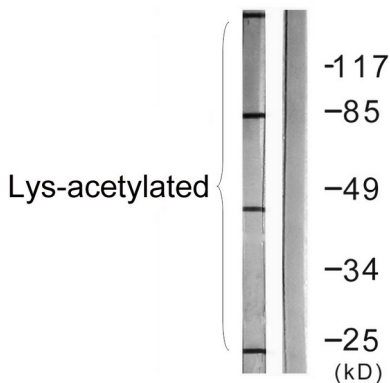
画像データ



Lys-アセチル化タンパク質抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



Lys-アセチル化タンパク質抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



TSA 400 μ M で 24 時間処理した COS7 細胞のライセートを、Lys-アセチル化タンパク質抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。